

2022年度PBL

# 南山城村1年間の活動報告 (3ヵ年計画の最終年度)

大阪国際大学

経営学科スポーツビジネスコース

横山誠ゼミナール

# コロナ禍における3カ年プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の蔓延により社会状況が一変した。行動規制や自粛が求められる状況下において、2020年度はウォーキングコースの拡充や指導者養成などの環境整備に着手し、2021年度はMAPのリニューアルとウォーキングコース活用したイベントを成功させた。2022年度は新たな価値創造を視野に入れた「新・南山城村プロジェクト」を展開した。

- 2020年…人・まち・キャンパス連携支援事業  
    ウェルネスウォーキング 指導者養成講習会
- 2021年…ウォーキングコース拡張とMAPリニューアル  
    アクティビティキャンペーンにてイベントの実施
- 2022年…**新・南山城村プロジェクト**（足湯、カヌー、eスポーツ）イベント  
    MAP英語版作成、ウェルネスウォーキング指導者養成講習会  
    地元シニア対象のウェルネスプロジェクト（人間科学部）  
    学生チャレンジ制度（横山ゼミ 4年：梅木）

# 2022年のイベント概要



## 「足湯」

- ウェルネスウォーキング&足湯イベントを3回開催。
- 目的：ウォーキング後の疲れを癒す。健康増進に繋げる。



## 「川のアクティビティ」

- ファミリーを対象川のアクティビティイベントを2回開催。
- 目的：南山城村の自然を感じてもらう。観光促進に繋げる。



## 「eスポーツ&レクリエーション」

- 学内にて釣りや投網のeスポーツ&レクリエーションイベントを開催。
- 目的：親子や仲間とのコミュニケーション、直接体験への導入。

# 2022年度の活動概要（前期）

---

5月21日(土) 南山城村散策

---

南山城村の資源や事業提案に繋げるための下見を行った。

---

7月2日(土) 川でのアクティビティ

---

南山城村の川にてカヌー体験と下見を行った。

---

8月25日(木) ウォーキングコース内の整備、道標とクイズの検討

---

安全と質の向上、リスクマネジメントの確認を行った。

---

9月9日(金) 投網体験

---

投網を体験し、室内で行えるゲーム化について検討を行った。

---

9月18日(日) ウェルネスウォーキング指導者養成&ヨガの体験

---

地元の方を対象にウェルネスウォーキングの指導者養成講習会を実施した。

# 2022年度の活動概要（後期）

---

10月8日(日) 川のアクティビティ

---

ファミリーを対象にラフティングの体験イベントを開催した。

---

10月22日(土) ウェルネスウォーキング&足湯体験イベント

---

大阪のシニアグループを対象に足湯の効果測定を行った。

---

11月5日(土) ウォーキングコースの整備、南山城村クイズの設置

---

コースの道標と共に南山城村にまつわるクイズを設置した。

---

11月17日(木) 株式会社アオキカヌーワークス会長インタビュー

---

カヌーの魅力や生涯スポーツとしての可能性を青木会長からお聞きした。

---

11月27日(日) 川のアクティビティ

---

ファミリーを対象にカヌーの体験イベントを開催した

# 2022年度の活動概要（後期）

---

12月3日(土) ウェルネスウォーキング&足湯体験イベント

---

本学短大生、ダウン症（S君）と保護者を対象に足湯の効果測定を行った。

---

12月17日(土) eスポーツ&レクリエーション体験イベント

---

学内にて釣りスピリッツ、釣りっこゲーム、投網ゲームを行った。

---

1月29日(日) ウェルネスウォーキング&足湯体験イベント、動物クイズの設置

---

本学短大生、幼児連れファミリーと保護者を対象に足湯の効果測定を行った。

---

2月22日（水）大学・学生の力推進事業成果報告会（京都府）

---

幼児と保護者と保護者を対象に足湯の効果測定を行った。子供用クイズを設置した。

---

3月14日(火) 村長報告会（南山城村）

---

村長他、体験プラザ、道の駅、マリオットホテル等にお礼と活動報告を行った。



# 足湯の効果測定

ウォーキング後すぐに40°Cに設定された足湯に3分間浸かり、その後お湯の入ったバケツから足を出し3分間の外気浴を行い、血圧の測定を行った。

対象者：男性16人、女性11人、平均61.2歳の計37名  
足湯は任意とし、足湯実施者15人、非実施者22人

実施者の内訳	10代	2人	50代	4人
	20代	3人	60代	2人
	30代	0人	70代	11人
	40代	0人	80代	3人



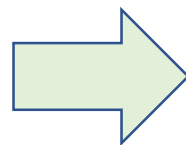
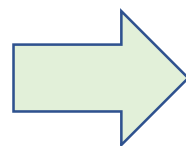
# 足湯の効果

ウォーキング前の血圧の平均

• 上 134.84 下 87.47

ウォーキング前の血圧の平均

• 上 141.66 下 91.57



ウォーキング後の血圧の平均

• 上 137.99 下 87.05 足湯なし

足湯後の血圧の平均

• 上 136.43 下 93.24 **足湯あり**

効果 ⇒ 足湯実施者の血圧が低下した



# 足湯体験イベント 評価と振り返り

## 【学生への評価】

足湯の事前説明が欲しかった。  
丁寧で子供一人一人に対応してくれていた。  
室内でも楽しめる遊びのヒントを貰えた。  
計画通りに行かない部分でも子供達に  
合わせてくれていただけありがたかった。

## 【学生の振り返り】

イベントは満足していただけたので良かった。  
イベントを重ねる事にスムーズに動いていた。  
足湯をする事を事前に伝えきれてなかったので確認して伝える必要があった。

## 【今後の課題】

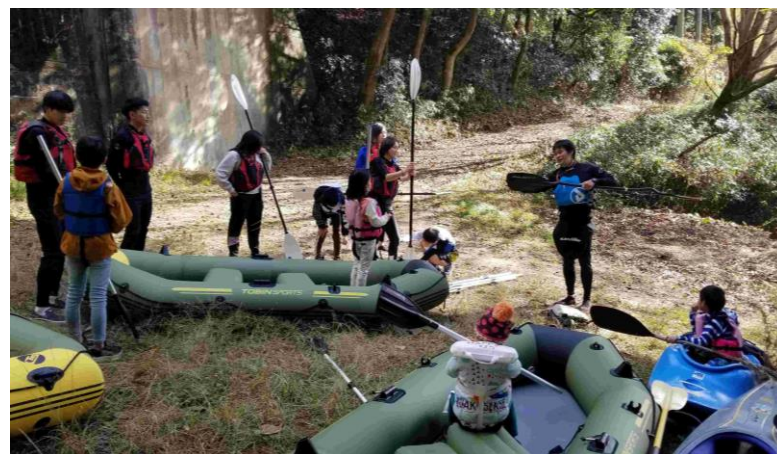
イベントマネジメントの経験値の向上。  
コミュニケーションスキルの向上。  
ウォーキングコース内にトイレや休憩場所などの設置するなどの提案。  
足湯を活用する際の準備や足湯に誘導する魅力づくりの検討。

# 川のアクティビティ体験イベント

南山城村の川にてラフトボートやカヌーを体験



本学のワンダーフォーゲル部や大阪府のカヌー国体チームの選手・監督などに協力していただき、漕ぎ方から川のアクティビティの魅力などを伝えていただいた。



# 川のアクティビティ体験 評価とふりかえり

## 【学生への評価】

楽しいイベントであったが段取りの部分でもっとわかりやすい説明があればよかった。子どもたちとも良い関係を築くことができていたと思う。  
子どもたちが生き生きとしており、とても貴重な体験が出来きこうした企画はありがたかった。

## 【学生の振り返り】

ラフトボートを膨らます作業が体力勝負であり時間がかかった。  
運搬や片付けも効率よくできるようにしないといけないと感じた。  
イベント実施に際してもっと早くから準備をし計画的に動く必要性を実感することができた。

## 【今後の課題】

川までの道のり（川周辺の環境）について整備の検討が必要。  
トイレや着替えの場所について地元の協力が必要。  
天候による（現地での）代替案が必要。  
冬には川のアクティビティを行えないので代替案の検討が必要。



# eスポーツ & レクリエーションイベント

南山城村を含む相楽東部のアウトドアアクティビティを動画にて紹介。



アウトドアアクティビティの疑似体験として、釣りスピリッツ（switch）や釣りっこゲーム、投網ゲームを体験。  
保護者はその間にリングフィットアドベンチャー（switch）でフィットネスを体験。



# eスポーツ等イベント評価と振り返り

## 【学生への評価】

イベント自体とても満足で今回のゲームを行ったことで少し南山城村に興味を持てた。子どもたちに合わせてくれてくれた事がありがたかった。  
参加者全員からイベントを通して南山城村の自然の中で実際に釣りや川のアクティビティを体験してみたいという声を頂けた。

## 【学生の振り返り】

対象者の理解と時間配分等の難しさを学べた。  
参加した子どもたちが純粋に楽しんでくれてよかった。  
イベント開催までの準備の部分でもっと余裕を持って行う必要があった。

## 【今後の課題】

疑似体験だけでなく、実際に南山城村に行っていただけのようなイベントの検討。  
子どもやファミリー以外のターゲット層を増やしたイベント実施や可能性を検討。





# 報告会（南山城村）

## ①平沼村長への1年間の活動報告・懇談

### 【懇談事項】

イベントでの学生たちの奮闘ぶりについて村長から高評価をいただいた。  
ヴァーチャルに注目したところはアイデアが現代風であり良かった。  
ウォーキングだけでなく川のアクティビティの可能性を掘り下げる点も要望された。

## ②協力者への御礼・懇談

### 【懇談事項】

体験プラザには一年間の活動報告と御礼を伝え、道の駅とマリオットホテルにはリ  
ニューアルしたマップ（日本語版・英語版）を提供した。そして、ウォーキング  
コースの活用や今後の観光促進に関して意見交換を行った。





# 学生の成長と評価およびPJとしての課題

## 【学生の成長】

- 先輩や教職員などの協力により最後までやり遂げたことでそれぞれの役割において責任感を痛感し成長できたのではないか。
- 学外関係者との関わりを通して、自分達の取り組みへの評価を客観的に感じ取り、感謝の気持ちや挑戦することの大切さを理解できたのではないか。

## 【学生の評価】

- 長引くコロナ禍において、3ヵ年計画の最終年度を無事にやり遂げられたことは大いに評価し一年間の奮闘ぶりも大いに称えたいと思う。
- 社会状況を見極めつつ「ヴァーチャル」という新しい視点も取り入れ、先輩たちの想いを継承し、しっかりと形にしてくれたと思う。

## 【PJとしての課題】

- 地域資源を最大限に活かしつつ、より多くの人々や年齢層にアプローチし、社会の変化を見極めた観光促進や地域活性化に繋がるプランニングが必要である。